



# かみぞのキッズクリニック

## シックキッズニュース

2018年5月号(No.12)

### ●インフォメーション

5月16日(水)と17日(木)の午後の診療時間を変更します。

5月16日午後、大分市の1歳半検診協力のため、17日午後、九州厚生局による新規開業医院の個別指導のため、診療時間を短縮いたします。今のところおおむね16:00~18:00の診療となると思います。ウェブ予約の開始時間や、ホームページのお知らせ欄、また院内掲示などで随時連絡いたします。皆様方にはご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解のほどお願いいたします。

### ●編集後記

大型連休の前半の4月29日と30日、正月以来、久しぶりに福岡に帰省してきました。犬の散歩で立ち寄った市の博物館の芝生で、四葉のクローバーを見つけました。昼に犬の散歩をして、夜に家族で焼き肉を食べに行っただけでしたが、久しぶりに味わう心平穏な時間を過ごしました。いいことあるといいですね。



サクラが咲いて散った、と思ったら、もうゴールデンウィーク。年月のたつのは早いものだ、と思うのも年のせいでしょうか。さて、ゴールデンウィークに、遠出を計画されている方も多いのではないのでしょうか。沖縄に家族でバカンスに出かけられるかたもいらっしゃると思います。でもちょっと待って、沖縄で“はしか”、麻疹が流行しています。今月ははしかにフォーカスを当ててみたいと思います。

### ●今月のフォーカス 麻疹・はしかのお話

#### ○麻疹・はしかとは？

私が医者になった1990年ごろまでは、はしかは決して珍しい病気ではありませんでした。毎年初から初夏にかけて流行し、たいてい肺炎を併発して入院することも多かったので、医者になったばかりの小児科研修医が生まれて初めて担当する疾患の一つでした。何を隠そう、私が医師になって初めて担当した患者さんも麻疹後肺炎でした。患者さんの熱が40℃から何しても下がらなくて、心配で家に帰れず、久留米大学病院の隔離病棟(通称北2病棟)のナースステーションでびくびくしていた、ナースたちに笑われた苦い経験があります。

咳や鼻水、眼球充血、微熱が数日つづいた後(カタル期)、一旦1度くらいに下がり、半日後に、突然40℃の高熱が3~4日続くという特徴的な熱形を呈して、真っ赤(rubeola)な丘疹が癒合して(麻疹様発疹、図1)麻疹の实のように見える発疹が腹部や背中を中心に出てきます(発疹期)。この頃になると、かすれたような咳がガンガン出て、同時に顔面が目やにと鼻水でドロドロになり、目ははれ上がり、口びるも荒れて亀裂が入る特徴的な麻疹顔貌(図2)となります。その後、ようやく解熱してきて、発疹は茶褐色に色素沈着して、とにかく汚い皮膚になります。全くなかった食欲が逆にリバウンドして食べ過ぎるようになり、腹をこわすというパターンでした(図3典型的な麻疹の経過)。

インフルエンザと同様、白血球の数が下がり、細菌による感染にかかりやすくなることに注意が必要でした。3~4日たっても熱が下がらない場合はたいてい肺炎を合併しており、入院して抗生物質を投与して治療していました。多くは気管支炎、肺炎で止まるのですが、ビタミンA欠乏症により失明したり(必ずビタミン剤の点眼や輸液

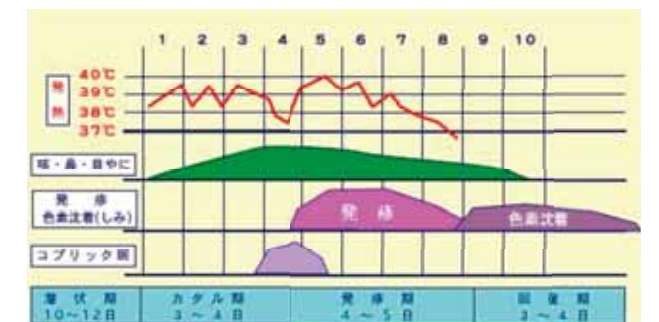
図1



図2



図3



中面につづきます

受付時間	月	火	水	木	金	土
9時~12時	●	—	●	●	●	●
14時~18時	●	—	●	●	●	●

#### 休診日/火曜・日祝日

9時より早く来られた方も、診療準備完了次第、順次診療してまます。また夕方6時ぎりぎりまで受付しております。お気軽に相談ください。

インターネット予約が可能です

かみぞのキッズ よやく | Q

http://kamizono-kids.com

ホームページQRコードはこちら



WEB予約QRコードはこちら



〒870-0822

大分県大分市大道町4-5-27 第5ブンゴヤビル2F

TEL:097-529-8833



内にビタミン剤を混注していました。ビタミン剤を混入した輸液はどぎつい黄色に変色するので、指示を忘れるとすぐに見つかり、教授回診の時にこっぴどく叱られたものです)、1000人に一人に麻しん後脳炎、まれに数万人から10万人に一人にSSPEがおこります。SSPE、亜急性硬化性全脳炎は、麻しん後5年から10年の無症候期をへて突然発症し、普通の元気な子供が、だんだんおかしくなり、数か月で寝たきりとなる悲惨な病気です。有効な治療はなく、ワクチンで麻疹を予防することしかありません。SSPE青空の会の代表、岸本裕子さんの体験記が国立感染症研究所のホームページにありますので、是非一読ください。  
(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-sp/2306-related-articles/related-articles-422/5640-dj4228.html>)  
また家族会の青空の会のホームページにも、体験談が列挙されています(<http://sspe.main.jp/hint.html>)。

**○麻疹にまつわる伝説(加藤茂孝著、「人類と感染症との闘い、第7回 麻疹(はしか)ー天然痘とならぶ2大感染症だった」より抜粋)**

日本人で成人麻疹により死亡した有名人は、5代将軍、徳川綱吉だそうです。当時の最高権力者の将軍の世子であるため、一般民衆とは隔離状態であり、年少期の数度の麻疹の流行を免れたため、免疫がなく、64歳ではしかにかかり死亡しました。

ハワイの大国の有名なカメハメハ大王の子ども、2世とその王妃が1824年イギリスに旅行した際にはしかにかかり、2人ともイギリスで死亡してしまいました。そもそも太平洋諸島の人々は麻しんの免疫がなかったうえに、大人の麻疹は子供よりも重症化する傾向があります。余談ですが、2人が死亡したとき、オアフ島の知事のボキという人が、2人の遺体を船で搬送して、途中でブラジルのリオに寄港したそうです。そこでボキはコーヒーの木を入手して持ち帰り、ハワイ島のコナで栽培しました。それがコナコーヒーの由来だそうです。

天然痘と麻しん。どちらも昔から、輸入感染症の代表でした。コロンプスの新大陸発見、すなわち1492年以後の南北アメリカ大陸の原住民は史上初めて、天然痘や麻疹にさらされた状態となりました。アステカやインカ帝国が短期間に崩壊したのは、侵入したスペイン軍の軍事的勝利によるものというより、天然痘や麻疹の感染症の持ち込みによる人口崩壊によるものであったそうです。日本も東アジアの孤島、という地理的な特徴があり、昔の天然痘や麻疹の流行はすべて国外からの輸入によるものでした。天然痘は15から20年周期で、はしかは25年から30年に一度の流行があったそうです。江戸時代には13回の大流行が記録されています。開国の年、1858年に輸入感染症でコレラが大流行しましたが、その4年後、1862年に最大の流行があり、はしかで24万人弱の人が死亡したそうです。コレラと麻しんという2つの輸入感染症の大



流行が、1853年の黒船来訪騒ぎ以降の人心の不安をさらに高まらせたのは間違いなく、はしか大流行の5年後、1867年、大政奉還により江戸幕府は崩壊しました。

**○はしかに関する格言について**

「天然痘は見目(みめ)定め、麻しんは命(いのち)定め」と江戸時代にはいわれていたそうです。天然痘によるあばたの印象の強烈さとともに、麻しんは、あばたは残さないがあっけなく死んでしまうことが印象的であったからでしょう。「はしかにかかって一人前」、「7歳までは神の子」といわれていたのは、昔(といっても私が子供のころのワクチンができる以前の近い昔)は7歳までに麻疹をはじめとほとんど小児感染症を卒業できたことを意味していました。



「はしかみたいなもの」という表現は、一生に一度は必ず感染するもの、しかし一生に一度しか感染しないものの象徴として使われてきました。成長期のやむを得ない人生のネガティブな通過儀式のようなものを例える時に使われます。

**○2007年の成人麻疹騒動**

10年前に起きた麻しん騒動、覚えていますか? 関東の高校生と大学生を中心に、はしかが流行して、全国に広がったところがありました。大分県でも51名の全患者数を記録、5年ぶりに成人麻疹も5名定点報告されました(表1大分県の2007年の集計を参照)。結局高校73校、大学83校が休校しました。インフルエンザをのぞけば、かつてこのような騒動はありませんでした。

その30年前の1978年に麻しんワクチンは定期接種となりました。それ以後、はしかの患者数は導入前の1/1000まで減少して、その当時でもはしかの患者さんを診ることがなくなりました。その中での麻疹騒動です。学校関係者は、「こどもの麻疹が、なぜ大人に?」と驚きをもって報道されました。麻疹の流行がなくなったために、こどものころにはしかにかからず、麻しんの恐ろしさの意識も落ちてワクチンの接種率が落ちたためにワクチンをしていない場合はもちろん、ワクチンはしていたにもかかわらず麻しんの感染を防げなかったケースもありました。この経験から、教育委員会や大学は、感染症対策の重症性に改めて気づいて、大学入学時のワクチンレコードの確認、免疫の有無の検査、ワクチンの無料追加接種などの方策を導入しました。厚労省も、急遽2008年4月から5年間限定で、中学1年時の3期、高校3年生の4期のMRワクチンの敵接種を導入しました。この結果、2008年に全年齢で11,007名の麻しん患者報告がありましたが、2009年には741名、今では麻しんは話題に上らなくなるほどに減少しました。それにして、麻しんの感染力の強さと、普段は軽視されてい

るワクチンの絶大なる効果を強く印象付けた騒ぎでした。

**○「天災は忘れたところにやってくる」(寺田寅彦)・・・感染症もしかり。4月の沖縄の麻疹騒動**

今年の3月半ばの14日、台湾人の沖縄の観光客が、沖縄で麻疹を発症してしまいました。すると、その10日後から、その台湾人の旅行者と接触があった人が次々と発熱しました。保健所の遺伝子検査の結果、旅行者と同じ麻疹ウイルス遺伝子型D8が検出されています(2007年流行した遺伝子型はD5型)。4月27日現在、沖縄での麻疹報告数は、接触者を中心に76名にまでに増えています(図4)。4月11日には、沖縄旅行帰りの愛知県の高中生が麻疹ウイルスに感染していることが確認され、その高校生と院内で接触した患者さんや病院職員を中心に、4月25日現在で8名感染が確認されています。沖縄県のホームページに発生患者情報を随時アップしています。

(<http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/measles.html>)

多くは、修飾麻疹、つまりワクチン接種を受けてはいるが、回数が1回、あるいは接種後時間がたっているために、不十分な免疫しかもっていない状態での感染なので、症状としては軽症で不典型の麻疹を発症している例が大多数のようです。熱が出て、少し発疹が出て、夏風邪みたいな感じだけど、麻疹患者との接触があるので、調べてみると麻疹ウイルスが検出された、という感じです。症状が典型的ではないので診断が困難で、遺伝子検査をしないとわからないことが多いです。症状は軽いとはいえ、修飾麻疹であっても、感染力は弱いながらも感染源になりえます。うつしてはいけない人にうつしてしまう可能性は非常に高いのです。



うつしてはいけない人とは、  
●妊婦・・・妊娠したら免疫力低下していることが多いので、麻疹が重症化することが考えられます。風しんとは違い、催奇形性はそこまで高くはありませんが、流産の危険が高まります。発疹出現後の2週間以内(90%)に3割は流産するのではないかとされています。患者接触直後に発症予防に有効といわれている緊急ワクチンも、生ワクチンのため妊娠していたら受けられません。

●1歳未満の乳児・・・麻疹を含むMRワクチンの定期接種は1歳を過ぎてからなので、ワクチンをしていない乳児が大多数。緊急ワクチンは可能ですが、生後6か月過ぎてからで、任意ワクチンなので、1万円程度の有料での接種となります。ちなみに任意ワクチン接種をしていても、1歳時と年長での定期接種はする必要あり。

●免疫不全の病気の人・・・言わずもがなです。前述したとおり、昔ははしかは命定めといわれており、ほとんどの先天性免疫不全症の子どもははしかにかかって生きながらえるこ

とができなかったのでしょうか。先天性免疫不全症候群の子どもには、唯一有効な緊急ワクチンも生ワクチンなので禁忌です。

**○大分県の麻しん対策について**

沖縄県で麻疹の流行により、大型連休後に日本各地に麻疹ウイルスが持ち込まれる危険性が高まっています。現時点(5/3)で、東京、愛知、埼玉、茨城、神奈川、山梨、静岡、大阪、山口、福岡で患者さんが確認されております(IDWR2018年15号、麻疹、2018年1-15週、国立感染症研究所)。大分県では、4月26日に麻しん風しん対策会議を開催して、各医療機関に、麻しんの拡大防止の徹底を周知しています。具体的には・・・

- 流行地域(沖縄にあたります)や東南アジアなどの流行国からの帰省、帰国、入国者の発熱については麻しんを念頭に置いての診察を行うこと
- 修飾麻疹(前述)が多くを占め診断が困難なので、必要に応じて、行政が行っている麻しんの遺伝子検査を依頼すること
- 保健所が行っている疫学調査に協力すること
- 成人に対するMRワクチンの接種については、1回しかワクチンをうっておらず、麻しん既往歴が不明で、ワクチン接種を希望される場合は、原則として抗体価を測定(自費診療で概ね7000円前後の費用)した上でワクチン接種を検討(任意接種で、接種費用は概ね1万円前後)。
- 流行地域や国への旅行まで2週間以内の場合は抗体価の測定なしでの接種が可能。

お心当たりの方は、受診前にまず電話で医療機関に相談の上、指示に従っていただきますよう、お願い申し上げます。

図4

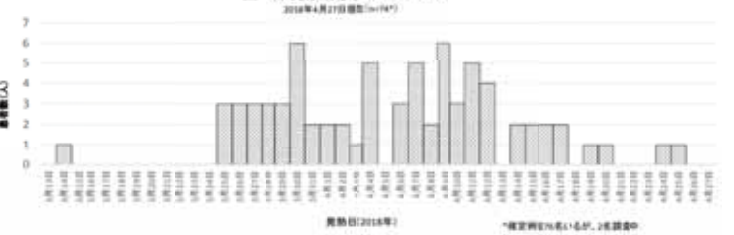


図5

表1. 大分県の月別麻疹患者報告数およびウイルス検出状況(2007年)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
定点報告(小児)	0	1	0	0	2	5	2	2	0	12
定点報告(成人)	0	0	0	0	1	2	0	2	0	5
全数報告	0	1	0	0	3	7	2	2	0	17
麻疹ウイルス検出数	0	0	0	0	0	1	2	7	1	11

